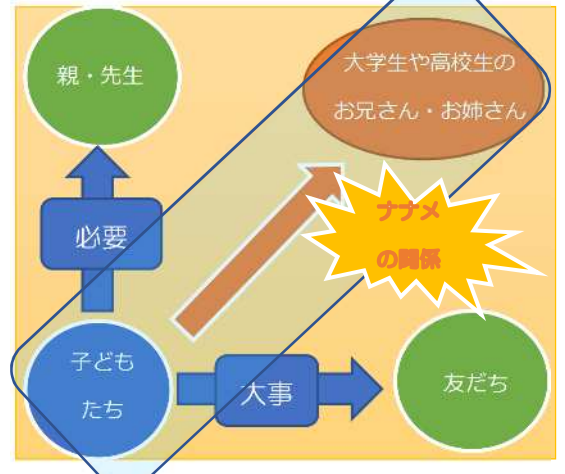




## 子どもたちにとって大切な十十メの関係

文部科学省がいじめや青少年の問題行動の対策のために設置している諮問機関「子どもを守り育てるための体制づくりのための有識者会議」では、学校や教師だけで現代的な教育問題に対応することは限界があるとして、地域における子どもを育て見守る仕組みが必要と結論付けています。この中では、①こども支援のネットワーク化や、②地域の人たちが気軽に入れる学校づくりと地域への学校開放、③小中学生のための放課後の多様な活動、④学校図書館の保護者や地域への開放、⑤豊かな心を育む自然環境の中での宿泊体験などが具体的な方策として紹介されており、**檜葉町では次年度からの展開に向けて、準備をしっかりと進めています（ちなみにすべての活動を次年度より実施する予定です!!!）**。そして何より、子どもにとって「ナナメの関係」をつくりだすことが大切だと結論付けています!!!

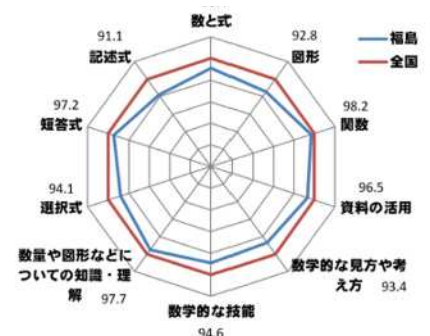
ナナメの関係とは、読んで字のごとく、子どもたちにとって親や先生のような「タテの関係」でもなく、友だちのような「ヨコの関係」でもない関わりとなる人々。日曜夕方にやっているテレビアニメを思い出してもわかるように、かつて地域にはそうした人たちがたくさんいました。希薄になった現代、さらに檜葉町には大学も高校もなく、なかなか日常的に関わることは難しいもの。そこで、教育委員会では冬休みに福島大学の大学生と小学生が体験活動や宿泊体験、さらに学習活動を通じて、交流できる機会を設定しました!!! 来年度はさらに広げていき、中学生を対象としてキャリア形成に重点を置いたメンター活動や大学キャンパス訪問、こども園での交流会なども実施していきます!!! 高校生の学習ボランティアも募集していく予定なので、町内在住の高校生の皆さん、ぜひご協力ください!!! 地域みんなで子どもたちを育てていきましょう!!!



ならはっ子こども教室での大学生との交流

## 明らかになった算数・数学に課題が大きい福島の子どもの実情

先日、福島県内の59市町村の学力向上担当者の会議があり、福島の児童生徒の学力についての意見交換会がありました。残念ながら、全国学力学習状況調査では、**小中共に福島の子どもの平均正答率は全国を下回っており、特に算数・数学が大きな課題としてわかりました。特に問題を読解して、根拠や理由を説明することが弱いとされています。**一方で、家庭学習に取り組む子どもの割合は全国平均以上で、強みとのこと。ぜひ、「なぜ、そう考えたの?」「どうしてそうなるの?」を合言葉に家庭学習でお声かけしてみてください。



中学校数学の領域・観点・問題形式別の状況

※出典：福島県教育委員会

# 町勢振興計画を子どもたちが学習しています。



6月に榊葉町のホームページで公開された「第六次 榊葉町 町勢振興計画」。皆さま、ご覧になられたでしょうか。今回、榊葉町の次代を創る小学生にも、町の行政のことをもっと知ってもらい、子どもたちの視点で、まちづくりに参画してほしいとの思いから、子ども向けの副読本を作成しました!!! そして早速、今月から、6年生がこれを使って町の課題や未来について調べ学習を始めています。学習した成果は、1月末に行われることも議会で、一般質問として質問する予定です。①地域コミュニティ、②教育・文化、③健康・スポーツ・医療、④福祉、⑤産業振興、⑥生活・環境基盤の6つの分野で進む子どもたちのまちづくりに向けた学習。榊葉町がどんなすてきなまちになっていくのか、子どもたちの提案がとても楽しみです。



熱心に町勢振興計画を学ぶ6年生

### (1) 副読本の使い方

やあ、榊葉町の6年生のみんな、政治の仕組みは理解できたかな？ 学校で学んだ県の政治の仕組み、みんなが住んでいる自治体町でも同じことが行われているんだ!! この副読本でしっかり学習してね!!!

**学習の流れ**

- ① 町勢  
東日本大震災と福島第一原子力発電所事故の発生について、まちの人たちの姿を調べ、これからの榊葉町にどんな町になってほしいのか調べる。
- ② 調べ  
榊葉町の町勢振興計画をもとに、町の計画について、調べよう。そして、自分が一番興味がある分野を選び、その計画について調べ学習を進めよう。
- ③ まとめ  
グループやクラスで、調べたことを発表し、町のためにできることを考えて、提案を立てよう。
- ④ 発表  
榊葉町こども議会で提案しよう!!!

## Q&A

**Q： /-メティアテ-でも、なかなかゲームやタブレットから子どもが離れられません。何かいい方法はありませんか？**

**A： 質問ありがとうございます。こうした質問はこども園の保護者の方からも寄せられていました。スマホやタブレットは今や当たり前の道具となり、利用する年齢も低年齢化の一途をたどっています。しかし、**子どもの成長にとって大切なのは実体験。**まずは年齢に応じたメティアとの付き合いができるように、ご家庭でルールや約束を話し合ってみてください。効果的なのは①食事中はテレビやビデオを視聴しない、②子ども部屋にはおかず、利用はリビング、③メールやlineは送る前に保護者がチェックする、④使用履歴を定期的を確認する、⑤オンラインゲームは友達と時間の約束をしないなどのようです。また、**/-メティアテ-に家族みんなで集まって、一緒に何かに取り組む**というのも楽しく過ごす秘訣のよう。はじめやすいところから、**スタートしてみましょー!!!****

## 遊びは子どもの主食です

～スマホを置いてふれあい遊びを～

- 愛着形成**  
親の顔と声と手は、赤ちゃんにとって最高のおもちゃです。
- 外遊び**  
五感や体力を育て、毎日が新しい発見や体験の連続です。
- 集団遊び**  
ことばや運動能力、社会性(ルールを守る)、相手思いややる気などが育ちます。
- お手伝い**  
子どものやりたがる気持ちを大切に、親ずのかかわりで生活能力、自立心などが養えます。
- 生活リズム**  
子どもは遊びの天才です。

しつかり遊ぶとぐっすり眠り、よく食べるようになります。

※出典：日本医師会・日本小児科医会

### 【教育委員会からのお知らせ】 【編集後記】

○ 教育委員会では、次年度からスタートする榊葉小学校内の地域サロンとならば子ども教室で活動するスタッフ(週2回午後のみ)を募集しています。詳細は教育委員会までお問い合わせください。

○ 先月、文部科学省や福島県教育委員会の担当が榊葉町に視察に来ました。今回のメインは地域と学校の協働についてです。被災地だからこそ大切なコミュニティ形成を目指した取り組みに太鼓判を押していただきました。これからも地域の皆さんと共に子どもたちの教育を推進していきたいと思ひます。(文責：榊葉町教育委員会 猿渡 智衛)